

広報広聴委員会行政視察報告

日程：平成27年10月8日（木）～9日（金）

参加者：重森委員長、天野副委員長、中川委員、岡田委員、坪井委員、重光委員、加根委員、
宮川委員、谷委員、乗越委員、事務局随員2名

●三重県四日市市

【人口】 312,688人 【面積】 205.58km²

◆調査事項：市議会モニター制度について、議会報告会について

・市議会モニター制度について

1 導入の経緯

平成16年度の議長選挙時の所信表明において、市議会モニター制度の設置について提案があったことを受け、会派代表者会議で議論を重ね、本制度の導入に至った。

2 市議会モニターの仕事

- ・本会議、常任委員会等を可能な範囲で傍聴し、意見を文書で提出する。
- ・随時、議会運営等に関する意見や提言を文書で提出する。
- ・議長から依頼のあった議会運営に関する調査事項等に回答する。
など。

3 報酬

無支給（ただし年度末に記念品の贈呈）

4 選考方法

- ・各地区市民センターの館長に、各1，2名の推薦を依頼
- ・四日市大学に、大学生の推薦を依頼（5名程度）
- ・一般公募（10名程度）

5 任期

1年。（ただし再任は妨げない。再任期は1年）

6 構成人数（平成27年度）

48人（推薦42人、公募6人、うち再任10人）

7 年齢構成（平成27年度）

10歳代：2人、20歳代：2人、
40歳代：2人、50歳代：7人、
60歳代：23人、70歳代：11人、
80歳代：1人、平均年齢62歳

8 活動状況（平成26年度）

意見交換会：31人、
本会議・委員会他傍聴：のべ131人、
アンケート：1回

9 モニターからの提言状況（平成26年度）

53件



・議会報告会について

1 開催状況

基本条例制定に伴い、平成23年9月定例会から毎定例会後に年4回開催。

毎回、4常任委員会毎に会場を分け、第1部として定例会の報告を行い、第2部としてシティミーティング（意見交換会）として決められたテーマについて市民との意見交換会を行う。

平成23年9月定例会と11月定例会の2回は、議会最終日の夜間に4常任委員会が4会場に分かれて同時開催していた。

しかし、参加者アンケートから、「他の常任委員会の話を聞きたい」などの意見が多くあったことから、平成24年2月定例会からは、2常任委員会毎に2日間に分けて実施し、現在に至っている。

また、平成24年6月定例会までは会場を固定していたが、現在は市内24地区を回ることにしている。

2 参加者数の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
参加者数	461	375	444	366
実施会場数	12	16	16	16
1会場あたり平均参加者数	38	23	27	22
10歳代	0	0	18	0
20歳代	2	0	38	5
30歳代	10	3	9	6
40歳代	34	18	25	30
50歳代	89	52	47	38
60歳代	104	103	101	86
70歳代～	72	87	84	82

3 課題

参加者数の減少・固定化

・議会報告会について（現地視察）

1 開催概要

月 日	平成27年10月8日（木）	
時 間	18:30～20:45	
常 任 委 員 会	総務常任委員会	教育民生常任委員会
報 告 事 項	8月定例会の内容	
シティミーティングテーマ	防災対策について	スポーツ施設整備について
会 場	常磐地区市民センター	日永地区市民センター

2 出席者

総務常任委員会会場：議員 8 人、事務局 3 人、手話通訳者 2 人、市民 12 人



教育民生常任委員会会場：議員 9 人、事務局 3 人、手話通訳者 2 人、市民 17 人



◆委員の感想

●市議会モニター制度

- ・推薦と公募による 50 人程度のモニターによって市民の要望や意見が随時提出され、それを反映しながら議会改革や議会運営が行われる。市政への市民の関心を高める方策の一つとして有効であると感じた。
- ・議会のことを広く知ってもらおうということについては良い取り組みであると思う。選考についてはできるだけ年齢層が固まらないように配慮する必要がある。
- ・モニターの選考については、仕方なく推選されてなる方もあるようだが、議会の傍聴や意見交換会の開催などにより、議会の活動を知ってもらう良い機会になっているようで、年々議会傍聴者も増えているとのこと。議会の広報活動の一環として良い制度であると感じた。
- ・議長の発案で議論を重ねられ制度発足した経緯の説明を受け、先進地の取り組みとして評価に値すると思う。

●議会報告会

- ・議会改革度全国一位の名のとおり、議会の見える化が進んでいる。ただ、議会報告会への参加者数が増えない、また固定化するといった傾向があり、その点が課題である。
- ・議会報告会とシティミーティング（意見交換会）を常任委員会毎に開催しており、所管の

- 事項を詳しく報告できるが、全体的な議案審議の経過が把握しにくいデメリットがある。
- ・ 市政への理解を深めるだけでなく、議員のスキルアップにつながると思う。
 - ・ 4 定例会後に開催しており、多すぎる感がしたが、実際に報告会の場を見学した結果妥当な回数であると感じた。
 - ・ 常任委員会単位で報告会を実施することに合理性を感じた。
 - ・ 各議員が定例会での議案の内容やその補足説明、さらには質疑応答を行うことで、参加された市民に各議員の個性が良くも悪くも伝わることになると思う。
 - ・ 定例会の報告は早口で少し解りづらかった。文章を読むのではなく、要約した内容を説明する方が良いと感じた。
 - ・ 市民からは、身近な問題や疑問など切実な意見が聞けたことは良かった。またこうした意見を基に一般質問等を行うことにより、行政への関心を深める事にも繋がると思う。
 - ・ 常任委員会毎に行うかどうかは協議すべきだが、地域単位で議員を決めるのも一案。
 - ・ 市民からは自分の個人的意見や苦情等を伝えたい方が多いのではと懸念したが、議会から一歩踏み出して、市民と膝を交えておられることを大変評価する。本市議会においても条例制定され期間も経過している現状を踏まえ議会報告会を実施すべきと考える。
 - ・ 市民約 15 名が参加していたが、議員と顔見知りの方がほとんどの様であり、毎回この報告会へ出席されている感があった（参加者の固定化）。
 - ・ 議会報告後のシティミーティングでは、リピーターと思われる参加者から数件の質疑があり、その内容に対してその質問に精通した議員が回答されていた。
 - ・ 本市議会の各議員においても地元や講演会等で報告会は実施されていると思うが、東広島市議会として幅広く市民を対象とした議会報告会の実施は急務であると思う。
 - ・ 議員の年齢層が若いこともあるのか、議会として、議員として積極的に市民の声を拾う努力が見える。しかし、モニターの募集や選任の実態を考えると、市民全体の声を拾えているとは思えない。本市議会において実施するならば、やるだけに留めてはならず、より広く市民の声を聴くことができる方法を熟考しなければならないと感じた。
 - ・ 第一に感じたのは、実施する側の議員と、参加する側の市民の経験値の高さである。双方の声が大きくなるような場面もあるとのことだが、両者が一定のモラルを持ったうえでのことであろう。
 - ・ シティミーティングに時間を割くために、前半の議会報告に充てた時間が短く、説明が早く儀礼的に感じた。
 - ・ 手話通訳 2 名を各会場に配置しており、感心した。
 - ・ 議会報告については、議会側からの一方的な原稿の朗読となっており、開催の意義を感じられなかった。
 - ・ 四日市市議会では、論客が揃っており対応できているが、本市議会を導入するとすれば、新人も多い状況の中で議員の力量が不安であると感じた。
 - ・ シティミーティングと抱き合わせで報告会が開催されており、市民にテーマの中から意見を出してもらい、議会の中で持ち帰った案件を考え条例化、一般質問に役立てられていると聞き大変参考になった。
 - ・ 議員一人ひとりがしっかり勉強されている。